

# 令和6年度カリキュラムマップにおける学習・教育到達目標(A~I)

## (A) 地球的視点から多面的に物事を考える能力

- 一般教養や水産関連分野の地球規模的な幅広い視野を持った知識・能力に基づき、人との関わりや自然や社会との共生に配慮した多面的な視点から考えることができる。
1. 社会のあり方と価値観の多様性について理解し、説明できる。
  2. 水産業及びその関連分野に関する知識により、水産業・水産施策の本質を問い合わせ、その社会的役割を明確に認識することができる。
  3. 水産業及びその関連分野の現状、問題点あるいは社会の要求について考え、説明できる。

## (B) 技術者倫理

- 専門的水産人(水産技術者)としての倫理的責任を認識し、自然や社会に及ぼす技術の影響を理解できる。
1. 水産業・水産関連分野の社会的役割を明確に認識するとともに、水産人としての課題と責任を自覚できる。
  2. 人類の健康・福祉や地球環境との共生のために水産科学技術を利用するにあたり、企業倫理と生命倫理や環境倫理を関連づけて考察できる。

## (C) 数学、自然科学および情報技術に関するリテラシーと応用力

- 数学・自然科学および情報技術に関する基礎的リテラシーを修得し、論理的に物事を考え、これを応用できる。
1. 数学的に物事を考える能力を養う。
  2. 水産業及びその関連分野に必要な自然科学、情報技術の知識と応用力を修得し、これを活用する能力を養う。
  3. 正確で秩序だった方法で情報を収集し、まとめ、加工できる能力を養う。

## (D) 該当する分野の専門技術に関する知識と問題解決能力

次の5つの水産学の専門分野の専門技術と基礎的知識を活用し、それぞれの分野が抱える問題を効果的に解決できる。

- (D-1: 水産流通経営)漁業生産、漁業経営、流通、国際情勢等に関する専門技術と基礎知識  
(D-2: 海洋生産管理)船舶運航、海洋・水産及び水産資源の持続的・科学的生産に関する専門技術と基礎知識  
(D-3: 海洋機械工学)船用機関、船舶機械、海洋環境、水産・食品機械等に関する専門技術と基礎知識  
(D-4: 食品科学)水産食品の安全・品質改善、水産物の機能、資源の有効利用に関する専門技術と基礎知識  
(D-5: 生物生産)水産動植物の健全な増養殖の推進および増養殖環境の保全に関する専門技術と基礎知識

## (E) 種々の科学、技術および情報をを利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

与えられた環境の中で、水産分野に限らず広く科学・技術に関する知識や種々の情報をを利用して、問題を正確に把握し、適切な決策や方法を見つける、実践できる。

1. 水産科学に関する諸問題を解決するための仮説を立てられる。
2. 仮説を検証するための調査研究等の取り組みを企画・遂行できる。
3. 付属の諸施設(実験場、練習船等)を利用して、問題に取り組みこれを解決できる。

## (F) コミュニケーション能力と国際感覚

日本語・外国語による論理的な記述力、発表力、討論能力などを、実践をとおして養うことにより、創造性・協調性・多様性理解・国際感覚などを身に付け、円滑なコミュニケーションに必要な能力を発揮できる。

1. 物事に関連性を見つけて、図表や専門用語を使用して適切に表現できる。
2. 適切な情報を選択し、その情報をもとに他者と協力して問題解決を図るとともに、その経過や結果を分かりやすく表現できる。
3. 日本語による適切な文章表現、口頭発表及び討論ができる。
4. 英語による技術論文の読解力、プレゼンテーションの基礎能力を養う。

## (G) 自主的・継続的に学習できる能力

水産科学に関する学習課題を設定し、それを自主的・計画的・継続的に遂行しながら改善を図ることができる。

1. 講義や情報技術により、新たな知識や適切な情報を獲得することができる。
2. 獲得した知識や情報を活用し、実験・実習、卒業研究・卒業論文等を行うことができる。
3. これらの過程を身につけることにより、生涯にわたって自主的に継続して学習することができる。

## (H) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

与えられた制約の下で自主的に計画をたて、水産科学に関する調査、研究を進め、結果をまとめることができる。

1. 実験・実習や卒業研究・卒業論文をとおして、課題解決についての計画を立てる能力を身に付ける。
2. 実験・実習や卒業研究・卒業論文の課題を、限られた設備や時間のもとで計画的に遂行し結果をまとめることができる。

## (I) チームで仕事をするための能力

水産科学に関する調査、研究等を他者と協働して進める際に、自己のなすべき行動と他者のとるべき行動を的確に判断し、働きかけながら実行できる。

1. 実験・実習、演習等をとおして、制約された条件の下、他者と協力しながら仕事を遂行する能力を養う。
2. 実験・実習、演習等の課題をチームで効果的に遂行することができる。

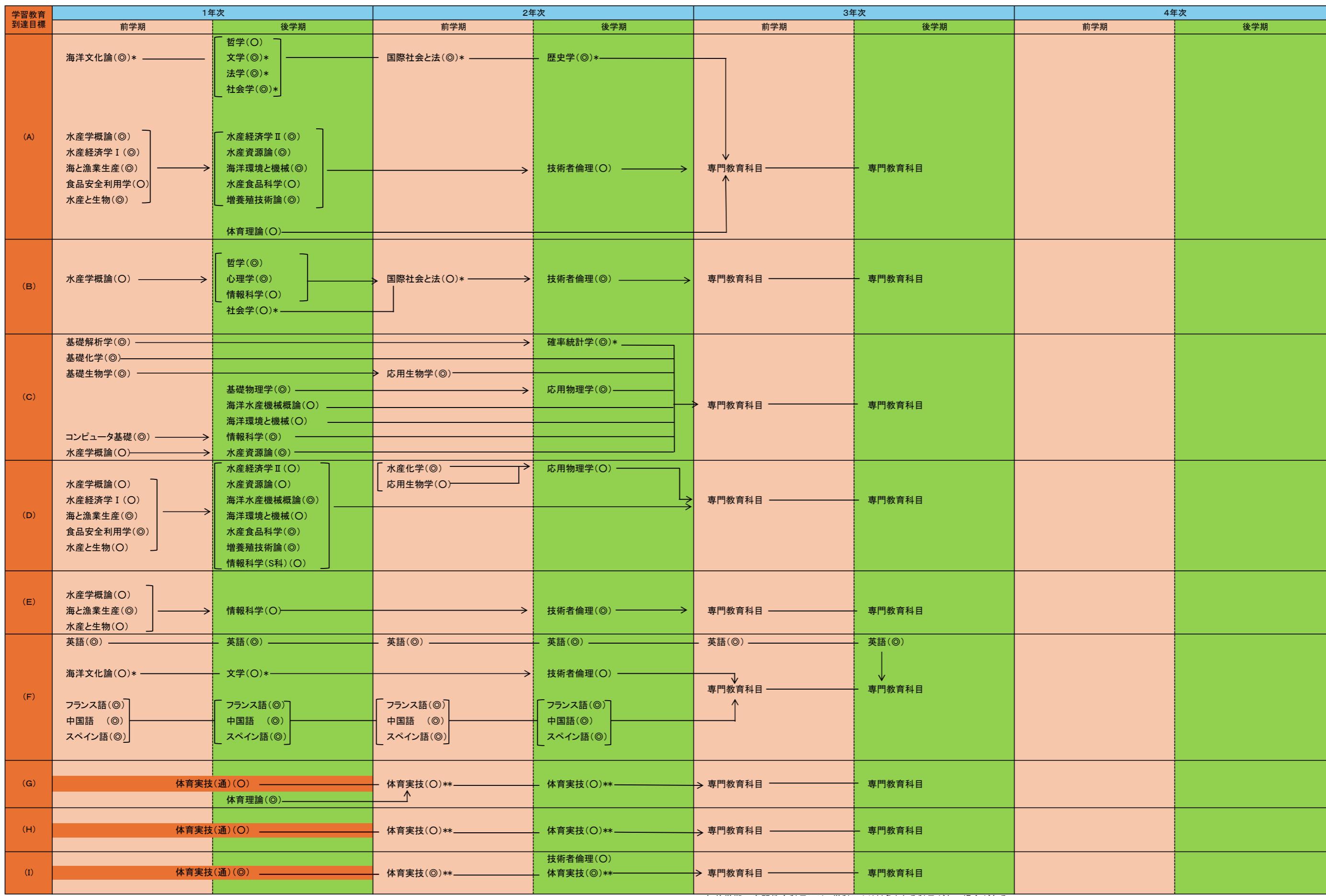
注釈1 学習・教育到達目標に主体的に関わる科目は(◎)、付隨的に関わる科目は(○)を表す。

注釈2 学科名をアルファベットで表記している場合がある。

水産流通経営学科(D科)、海洋生産管理学科(F科)、海洋機械工学科(M科)、  
食品科学科(S科)、生物生産学科(A科)

注釈3 次のページからは、(A)~(I)の各学習・教育到達目標について、卒業までに履修する科目間の連携を示す。

## 学習・教育到達目標(共通教育科目) : 令和6年度カリキュラムマップ



\*印がついた科目的配当は、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校履修規程 別表2にある配当年次が示す場所に配置している。  
配当年次および配当学期はコース科目の振り分けにより変更することがある。

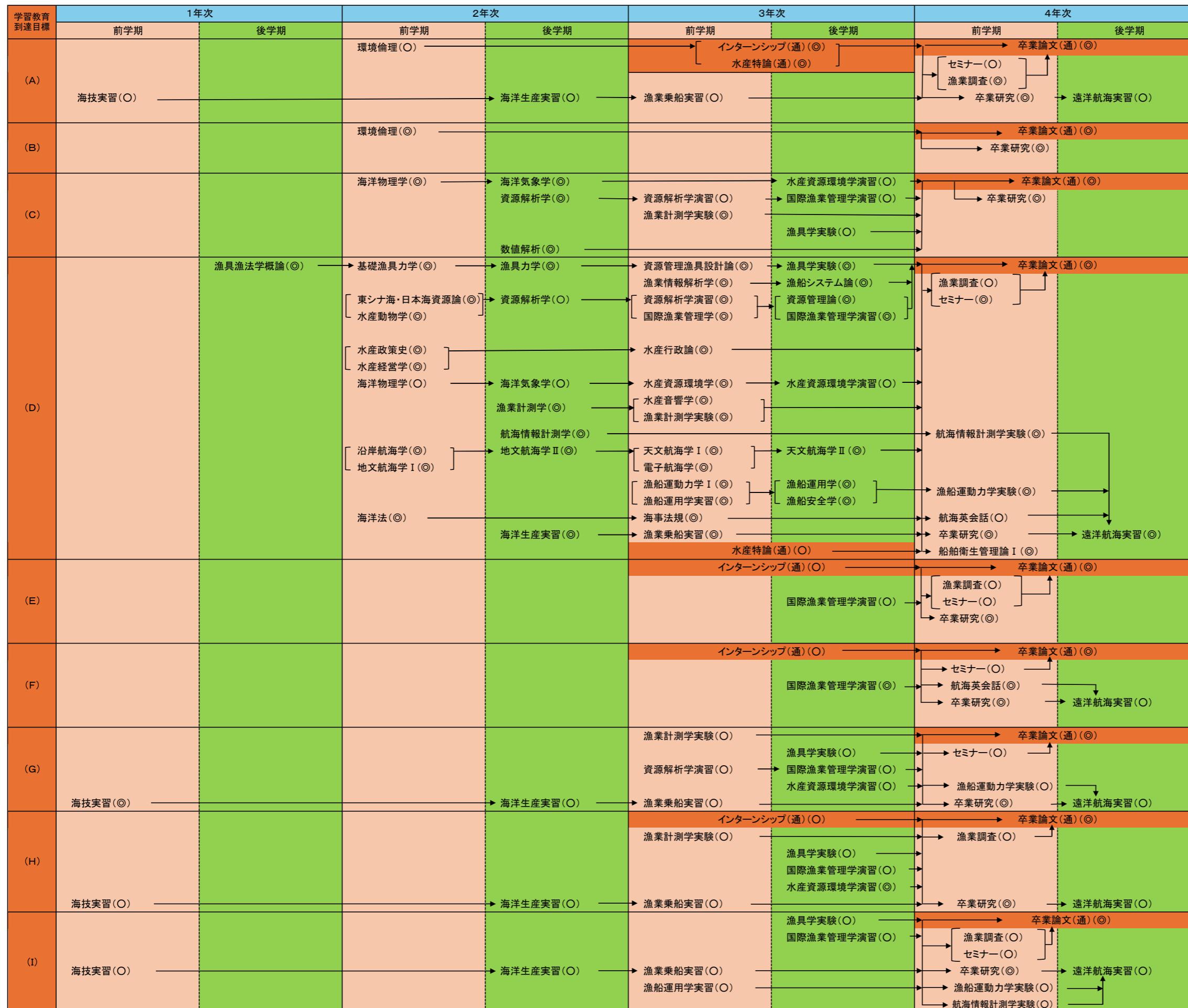
\*\* 2年次の体育実技の配当学期は、コース科目の振り分けにより変更することがある。

・3年前学期の専門教育科目には、学科により対象となる科目がない場合がある。

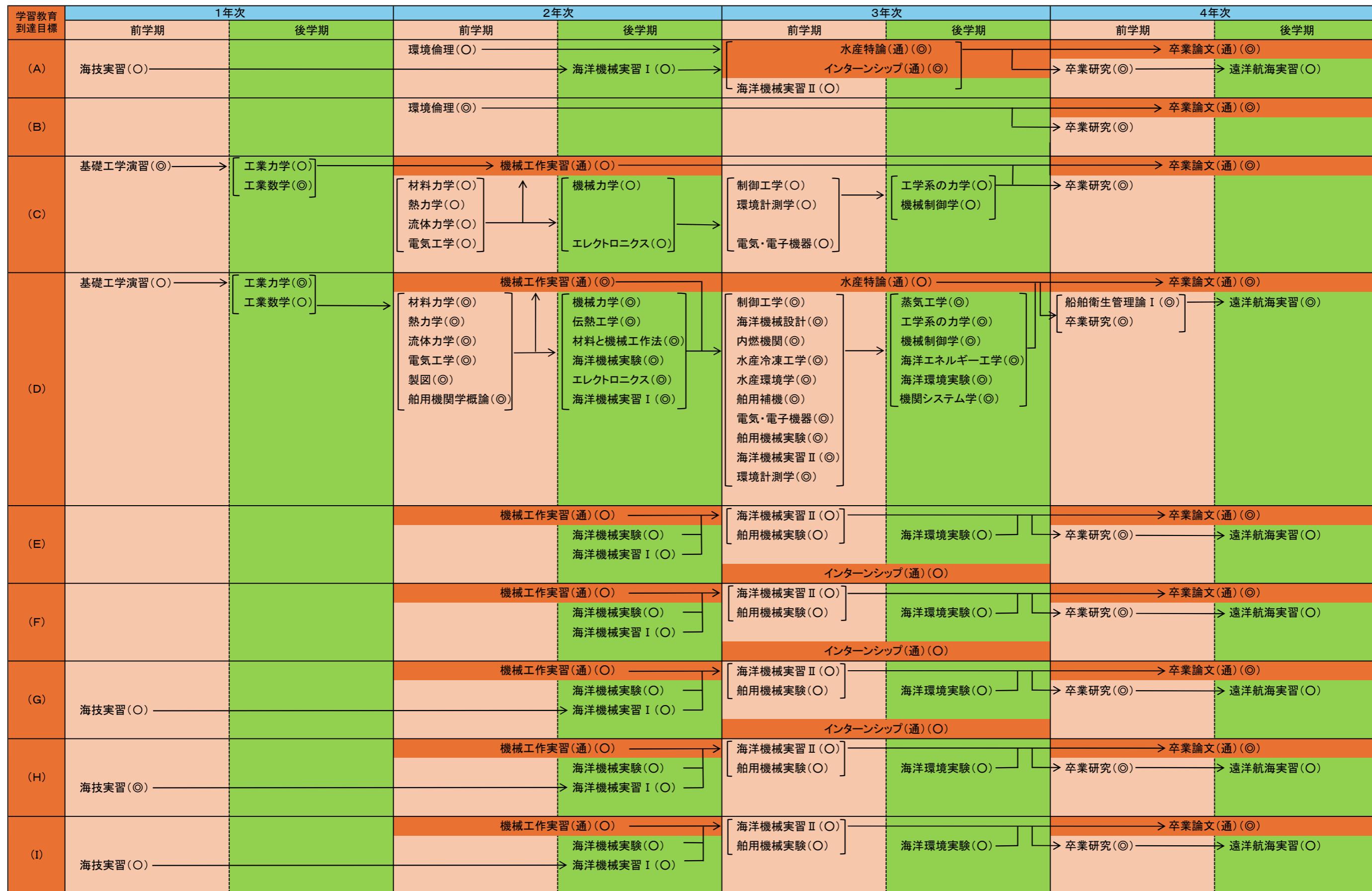
学習・教育到達目標(専門教育科目：水産流通経営学科)：令和6年度カリキュラムマップ

学習教育 到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
(A)			環境倫理(○) 海洋水産実習(○) 水産経済・流通調査(○)		→ 水産特論(通)(○) インターンシップ(通)(○) セミナー(○)		→ 卒業論文(通)(○)	
(B)			環境倫理(○)				→ 卒業論文(通)(○)	
(C)		線形代数(○)		→ 解析学(○)			→ 卒業論文(通)(○)	
(D)	水産物フードシステム実習(○)	→ 漁具漁法学概論(○)	水産流通経営セミナー(○) 食料経済論(○) 水産経営学(○) 水産政策史(○) 漁業構造論 I (○) 水産物市場構造論(○) 水産制度論(○) 漁村漁港環境アメニティ論(○) 海洋水産実習(○) 水産経済・流通調査(○)	水産管理環境論(○) 漁業協同組合論(○) 水産労働論(○) 水産物消費マーケティング論(○) 魚類学(○)	水産特論(通)(○) 水産資源經營管理論(○) 水産人材育成論(○) 水産地域振興論(○) 水産フィールド調査演習(○) 養殖経済論(○) 海洋法(○) 水産行政論(○) 漁業構造論 II (○)	HACCP(○) 水産国際関係論(○) 水産經營分析論(○) 水産統計データ解析(○) 水産流通加工ビジネス論(○) 水産物ロジスティック・システム論(○) セミナー(○)	→ 卒業論文(通)(○)	
(E)			海洋水産実習(○)		→ 水産フィールド調査演習(○)	→ セミナー(○)	→ 卒業論文(通)(○)	
(F)			水産流通経営セミナー(○)			→ セミナー(○)	→ 卒業論文(通)(○)	
(G)	水産物フードシステム実習(○)		→ 水産流通経営セミナー(○) 海洋水産実習(○) 水産経済・流通調査(○)		→ セミナー(○)		→ 卒業論文(通)(○)	
(H)	水産物フードシステム実習(○)		→ 海洋水産実習(○)		→ 水産フィールド調査演習(○)		→ 卒業論文(通)(○)	
(I)	水産物フードシステム実習(○)		→ 海洋水産実習(○) 水産経済・流通調査(○)		→ 水産フィールド調査演習(○)		→ 卒業論文(通)(○)	

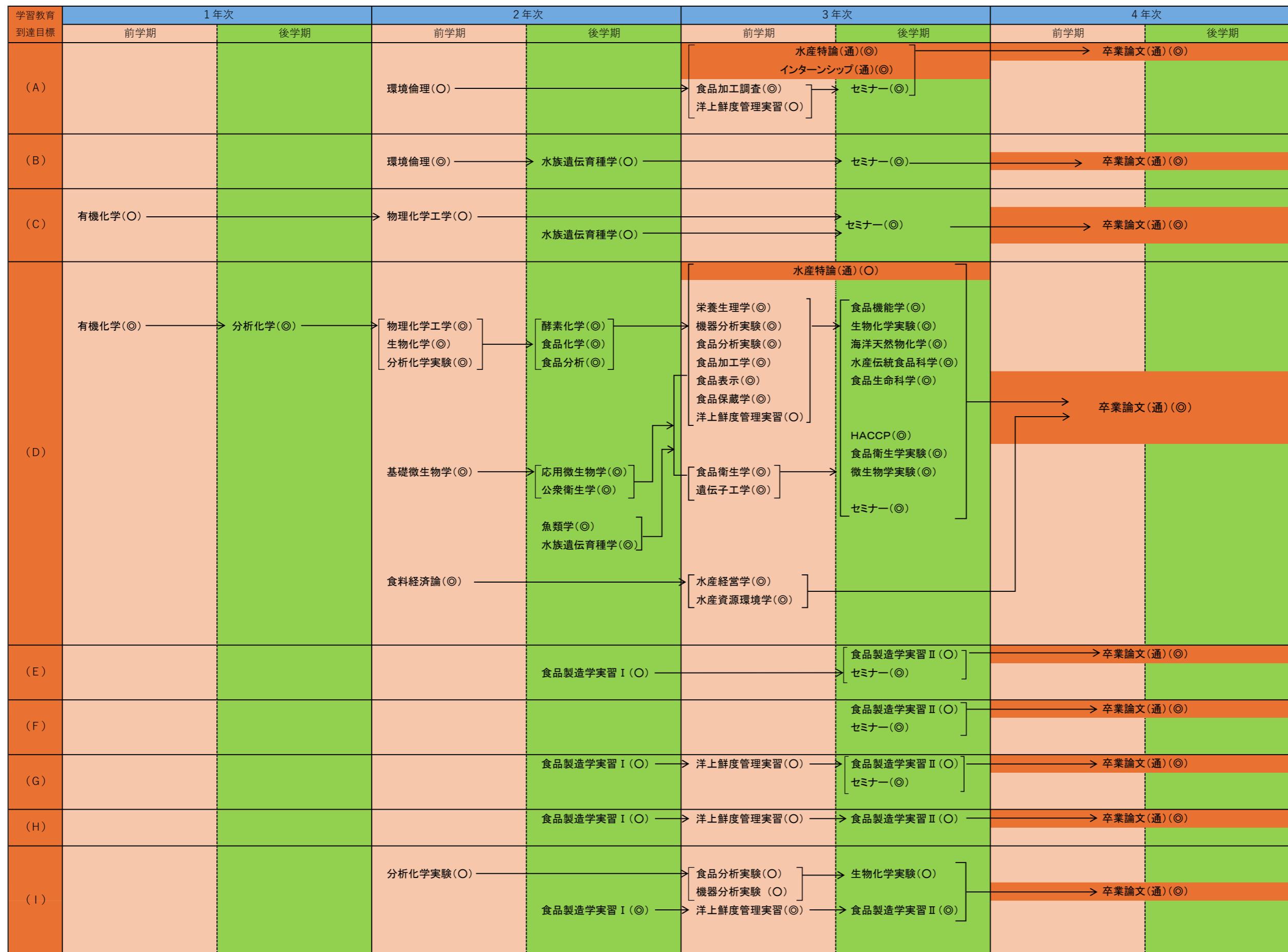
学習・教育到達目標(専門教育科目: 海洋生産管理学科) : 令和6年度カリキュラムマップ



学習・教育到達目標(専門教育科目：海洋機械工学科)：令和6年度カリキュラムマップ<sup>†</sup>



学習・教育到達目標(専門教育科目：食品科学科)：令和6年度カリキュラムマップ<sup>⑤</sup>



学習・教育到達目標(専門教育科目：生物生産学科)：令和6年度カリキュラムマップ<sup>†</sup>

